

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02311

研究課題名(和文) 16世紀中葉におけるヴェネツィア絵画と宗教思想の相関性に関する研究

研究課題名(英文) Venetian Painting and its Religious Background in the Mid-16th Century

研究代表者

越川 倫明 (KOSHIKAWA, Michiaki)

東京藝術大学・美術学部・教授

研究者番号：60178259

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、イタリア16世紀中葉の宗教的諸潮流を背景に、当時ヴェネツィア共和国で制作された宗教美術作品(主に絵画、版画)の分析を行なった。近年のイタリア宗教史の成果から当時の教会の異端問題に対する態度の変遷を正確に把握することによって、美術作品に表現にいかなる同時代的意味を読み取ることができるのかを問題とし、俗語訳聖書の統制の経緯と宗教美術の問題、異端の嫌疑をかけられた高位聖職者に関連する美術作品の解釈といった問題に、いくつかの新たな知見をもたらすことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は16世紀ヴェネツィア絵画のいくつかの作例について、同時代の宗教的潮流との関係からいくつかの新知見をもたらすことができた。その成果は、主として英語で発表、あるいは刊行されることにより、国際的な美術史研究者のコミュニティから新たな学術的貢献として一定の評価を得ている。たとえば、マドリード自治大学のフェルナンド・マリアス教授、グラスゴー大学のトム・ニコルス教授らが、これらの研究成果に言及あるいは引用している。

研究成果の概要(英文)：This research focused on the controversial religious currents in the mid-16th century Italy and their relation to the contemporary Venetian religious art. Consulting the rich fruits of recent studies in religious history, our research tried to present new analyses on several art works from the period, particularly in relation to the history of Roman Church's regulations regarding the vernacular translation of Bible, and the cases of severe control of heretical thoughts. As a result, we could shed light on iconographic questions concerning some mid-16th century Venetian religious works.

研究分野：芸術学 美術史

キーワード：ヴェネツィア絵画 対抗宗教改革 キリスト教美術 異端審問 俗語訳聖書

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

従来、16世紀半ばから後半におけるヴェネツィア宗教絵画の図像学的考察は、対抗宗教改革におけるカトリック側の主張点の反映として単純に解釈されることが一般的であった。たとえば、最後の晩餐の図像における聖体の強調、聖人伝図像等における善行・慈愛の強調は、宗教論争の争点であった実体変化の教義や、ルター派の「信仰のみによる義認」に対するカトリック側の伝統的主張を反映している。こうした解釈にはもちろん妥当性はあり、やがてトリエント体制下の宗教美術に受け継がれていくものであることは確かであるが、本研究が対象とする時期においては、このような単純なカテゴライズに収めることのできない、個性的な図像表現が数多く生み出されており、それらは「対抗宗教改革」というキーワードのみでは説明しきれない多様性を示している。

一方、宗教思想史の分野では、トリエント公会議開幕前夜から開催期間中のイタリアにおける正統と異端の複雑な問題系は、近年までに多くの研究成果を生み出してきた。1530年代から1550年代にかけての教皇庁のルター派に対する態度は、いくつかの段階を経て早いリズムで変化しており、教皇パウルス3世による改革派枢機卿の任命と教会改革のための評議会の設置(1535)、レーゲンスブルク帝国議会におけるプロテスタントとの和解の試みの完全な失敗(1541)、ローマにおける異端審問所の再編成(1542)、トリエント公会議の開幕(1545)、ヴェネツィアにおける異端審問組織の設置(1547)、パウルス4世(ジャンピエトロ・カラファ)の教皇登位に伴う異端審問・出版統制の強化(1555)といった展開をたどっている。その間に、もともとルター派の思想の一部に共感的でもあった改革派のカトリック知識人たちが、和解の不可能性が明らかになってのち、保守的姿勢の硬化のなかで異端視され弾圧されていくという結果も生じる。しかし同時に、ローマ教会の腐敗に対する批判の伝統を背景として、プロテスタント思想に対する共感的態度はイタリアの社会、とりわけドイツとの経済的つながりの強いヴェネツィア社会のなかに根強く浸透・存続し、異端審問所による摘発を通じて記録に残されることとなった。これらの記録にうかがわれる隠れた異端的コミュニティの存続や禁書の地下流通の様相は、近年までに多くの歴史家たち(アドリアーノ・プロスペリ、ジリオラ・フラニート、マッシモ・フィルボラ)によって詳細に検討されてきている。

こうした歴史的事態に照らすとき、美術史の分野においても、「人文主義と世俗性を特質とするルネサンス的価値からパウルス3世時代を境とするトリエント体制下の宗教的厳格化への移行」という単純な図式では理解しきれない領域があることは明らかであろう。本研究はそうした観点にたち、1540年代から1570年代にヴェネツィアで制作された宗教的イメージ(絵画のみならず版画も含む)を分析・考察する。

2. 研究の目的

本研究は、トリエント公会議の開催時期とおおよそ重なる1540年代から1570年代にかけてヴェネツィアで制作された宗教絵画を扱う。研究の目的は、カトリックとプロテスタントのあいだの教義上の論争が熾烈をきわめ、またイタリアにおいてもプロテスタントの見解が依然として無視しえない影響力をもったこの時期において、宗教美術の表象が思想上・教義上の論争にいかなる反応を示し、いかなる変容をとげたかという問題に着目し、システムティックな作品分析を通じて新たな知見を見いだそうとするものである。対象とする主要な画家は、従来から申請者の研究対象であるヤコポ・ティントレット(1519-1594)を中心に、バットィスタ・フランコ(1510頃-1561)、ヤコポ・バッサーノ(1515頃-1592)等である。

3. 研究の方法

本研究を進める手順は、方法論的にはコンテクスチュアルな実証研究と図像学的な分析を組み合わせたかたちとなる。実施項目としては、関連する宗教思想・宗教著作に関する文献的研究、対象作品の実見調査と文献的研究、対象作品に関連した一次史料の調査、作品の様式的・図像学的分析、図像的典拠となった同時代の版画刊行物等に関する調査が主要なものとなる。作品自体の調査から抽出される論点と、同時代の宗教論争において争点となった教義との対応関係を措定していくことが、本研究の基本的な手続きである。

したがって、特に宗教史、宗教思想史における当該の時代的・地理的範囲の近年の研究成果に十分に目配りを行ない、そこから同時代美術の動向に関連しうる情報を厳密な経時的順序で整理する。そうした宗教的背景を念頭に置きつつ、この時期に制作された美術作品を細部にわたって分析することで、これまでの作品解釈では見逃されてきた作品の表象内容を明らかにしていく。

4. 研究成果

以上の目的・方法に基づいて研究を進めた結果、次のような研究成果が得られた。

(1) 16世紀中葉のイタリアの宗教的思潮を敏感に反映した出来事として、トリエント公会議の経緯や教令の内容に加えて、ローマ教皇庁における出版統制の問題について集中的に調査した。この経緯は複雑な時系列をたどっているが、とりわけ宗教絵画との関連で注目されたのは俗語版聖書の出版統制の問題であった。教皇庁による禁書目録における聖書版本の統制方針の変遷、およびその複雑な時系列を整理した結果、こうした潮流が同時代のヴェネツィア絵画における図像表現に一定の反響を及ぼしている可能性が確認され、その考察の成果を立教大学で開催された「新約聖書図像研究会」で発表するとともに、2020年度内に英文論文として公刊を準備押している。

(2) 16世紀中葉、とりわけ1550年代から頻発する高位聖職者に対する異端審問の状況について調査を進め、特にヴェネツィアの重要な芸術パトロンとして知られるアクイレア総大司教ジョヴァンニ・グリマーニにかけられた異端の嫌疑および審問の経緯について整理した。その結果、グリマーニに関連するいくつかの版画および絵画作品(アンドレア・スキアヴォーネ、バッティスタ・フランコ、エル・グレコなど)について、新たな知見として、こうした文脈下で宗教的正統性を主張するための図像内容が示唆された。この成果は、アテネのペナキ美術館から刊行されたエル・グレコに関する論文集で発表した。

(3) 宗教思潮の問題に直接的に関連する内容ではないが、2018年/19年が本研究の内容に密接に関係するヴェネツィア画家ヤコポ・ティントレットの生誕500年にあたっており、世界各地で多くの関連する催しが行われたため、積極的に関与した。ワシントン・ナショナル・ギャラリーおよびヴェネツィアのパラッツォ・ドゥカーレで開催されたティントレット大回顧展の企画に学術委員会メンバーとして参加し、展覧会図録の一部を執筆した。また、ニューヨークのモーガン図書館で開催された関連シンポジウムに招待され、口頭発表を行なうとともに、同図書館で開催されたティントレットを中心とするヴェネツィア素描の重要な展覧会について、詳細な展覧会評をニューヨークの学術誌「マスター・ドロ잉ス」に執筆・投稿した(2020年6月刊行予定)。

(4) ほぼ同時代の我が国における関係する問題として、現在カトリック長崎大司教区に所蔵される17世紀初頭の貴重なキリシタン絵画遺品、いわゆる「聖母マリアの御絵」について集中的な調査を行なった。その結果、この作品が、第二次大戦中に長崎で焼失したと考えられ、国立歴史民俗博物館に写真が残る別のキリシタン絵画「マリア十五玄義図」と同一作者によるものであることが明らかになり、従来あいまいであった制作年代や、キリシタン弾圧の歴史のなかでの文脈を明らかにすることができた。この成果は長崎県立博物館の紀要で公刊し、また、近く英文でも発表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Michiaki Koshikawa	4. 巻 vol. 58, no. 2
2. 論文標題 Review: Drawing in Tintoretto's Venice	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Master Drawings	6. 最初と最後の頁 247-254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michiaki Koshikawa	4. 巻 vol. 17
2. 論文標題 Jacopo and Domenico Tintoretto as Draftsmen: Some Debatable Works from circa 1580 - 1600	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Aspects of Problems in Western Art History（東京芸術大学西洋美術史研究室紀要）	6. 最初と最後の頁 135-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michiaki Koshikawa	4. 巻 Benaki Museum, Athens
2. 論文標題 Andrea Schiavone, Battista Franco and the Grimani Family: On the Historical Context of the Modena Triptych and its Visual Sources	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 N. Hadjinicolaou and P. K. Ioannou (eds.), Perceptions of El Greco in 2014	6. 最初と最後の頁 212-229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 越川倫明	4. 巻 16
2. 論文標題 展覧会評：ティントレット：天才の誕生	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Aspects of Problems in Western Art History（東京芸術大学西洋美術史研究室紀要）	6. 最初と最後の頁 121-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 越川倫明	4. 巻 第12号
2. 論文標題 カトリック長崎大司教区所蔵《聖母マリアの御絵》に関する美術史的考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長崎歴史文化博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 17-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 越川倫明
2. 発表標題 16世紀ヴェネツィア絵画と聖書
3. 学会等名 第19回新約聖書画像研究会例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Michiaki Koshikawa
2. 発表標題 Jacopo and Domenico Tintoretto as Draftsmen: Some Debatable Works from circa 1580 - 1600
3. 学会等名 Drawing in Tintoretto 's Venice: An International Symposium, The Morgan Library & Museum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 越川倫明
2. 発表標題 長崎大司教区所蔵「聖母マリアの御絵」に関する美術史的研究
3. 学会等名 平成29年度長崎県学術文化研究費補助金成果発表会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 森田義之 越川倫明 ほか（監訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 751
3. 書名 ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第二巻	

1. 著者名 山梨絵美子、越川倫明（共編訳）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 389
3. 書名 美術の国の自由市民 矢代幸雄とバーナード・ベレンソンの往復書簡	

1. 著者名 Robert Echols, Frederick Ilchman, Miguel Falomir, Michiaki Koshikawa, et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Marsilio Editori, Venezia	5. 総ページ数 293
3. 書名 Tintoretto 1519-1594	

1. 著者名 Robert Echols, Frederick Ilchman, Miguel Falomir, Michiaki Koshikawa, et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Yale University Press	5. 総ページ数 293
3. 書名 Tintoretto: Artist of Renaissance Venice	

1. 著者名 越川倫明 松浦弘明 甲斐教行 深田麻里亜	4. 発行年 2017年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 283
3. 書名 ラファエロ 作品と時代を読む	

1. 著者名 森田義之 越川倫明 ほか(監訳)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 511
3. 書名 ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第五巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----